

①事業名	【23】子どものこころの成長に関する基盤整備事業	
②主管課及び関係課（課長名）	（主管課）初等中等教育局児童生徒課（課長：木岡 保雅） （関係課）研究振興局基礎基盤研究課（課長：大竹 暁） 研究振興局ライフサイエンス課（課長：松尾 泰樹）	
③施策目標及び達成目標	施策目標2-2 豊かな心の育成 施策目標2-3 児童生徒の問題行動等への適切な対応 達成目標2-2-3 2-3-4 子どもの情動やこころの発達等に関する研究を振興し、その成果の教育への応用を図り、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動や子どもの健全な発達を支援する。	
④事業の概要	【対象】 児童生徒の問題行動等は依然として教育上の重要な課題であるほか、近年、真面目で大人しく見える、従来の生徒指導の対象となりづらい児童生徒が重大事件を起こす等の事例も相次いでいる。こうしたことから、脳科学等の研究を行う研究機関や教育現場に対して、 【手段】 学齢期の児童生徒等を対象とした同一年齢集団の追跡調査・分析（コホート研究）の推進、脳科学等の研究成果の教育への応用を促進するための環境整備等を行うことにより、 【意図】 子どもの情動やこころの発達等に関する研究成果の教育への応用を図ることで、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動や子どもの健全な発達を支援する。	
⑤予算額及び事業開始年度	平成19年度概算要求額：150百万円（新規）	
⑥広報計画	現在、有識者による「情動の科学的解明と教育への応用に関する調査研究」会議を開催しており（公開）、同会議において、国の取組の今後の方向性等につき報告書をまとめ、広く一般に公表するとともに、今後、各教育委員会等に対して、会議の場等を通じて事業の趣旨について広報を行う。	
⑦事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑨得ようとする効果及び上位目標との関係	【得ようとする効果】 子どもの情動やこころの発達等に関する研究成果の教育への応用を図ることで、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動や子どもの健全な発達への支援に資することを旨とする。 【上位基本目標・達成目標との関係】 子どもの健全な発達を支援することで、子どもの豊かな心の育成や問題行動等に対し適切に対応することができる。	⑩達成年度 平成21年度
⑪必要性	平成16年度の児童生徒の問題行動等については、不登校児童生徒数が3年連続で減少する一方、小学校における暴力行為の発生件数が増加しているなど、引き続き教育上の喫緊の課題となっている。また、近年、真面目で大人しく見える、従来の生徒指導の対象となりづらい児童生徒が重大事件を起こす等の事例も相次いでいることから、子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動等を実施するために、科学的根拠の蓄積のための客観的データの収集を行い、教育と研究との連携システムを活用した脳科学等の成果の教育への応用を全国的に図ることが必要である。	
⑫効率性	【事業に投入されるインプット（資源量）】 本事業において、学齢期の児童生徒等を対象とした同一年齢集団の追跡調査・分析（コホート研究）の実施、脳科学等の研究成果の教育への応用を促進するための環境整備等を行うのに必要な経費は150百万円である。 【事業から得られるアウトプット（活動量）】 研究成果を全国の教育現場に普及させることで、児童生徒が通う全国小・中・高等学校約40,000校の学校現場における子どもの心の発達過程を踏まえた効果的な教育活動等がより効果的・効率的になる。	

⑬ 想定できる代替手段との比較考量	本事業は、学齢期の児童生徒等を対象とした同一年齢集団の追跡調査・分析（コホート研究）の実施、脳科学等の研究成果の教育への応用を促進するための環境整備等を国レベルで行い、成果を全国の教育現場に普及するものであり、各地域において個別に研究を実施するよりも効果的・効率的であると考えます。
⑭ 有効性	<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究リエゾン拠点のデータベース上のコンテンツの蓄積状況 <p>【参考指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育現場における子どもの情動やこころの発達等に関する研究の成果の活用状況 ・ 脳科学等の研究に関する論文数 ・ 全国の不登校、中退、暴力行為、いじめの発生件数
⑮ 公平性、優先性	[政策の特性に応じて、必要により評価]
⑯ 評価に用いたデータ・情報・外部評価等	「生徒指導上の諸問題の現状について」（文部科学省調査）
⑰ 備考	<p>本事業により、脳科学等の成果の教育への応用等の促進を図ることとあわせ、平成19年度概算要求においては、下記事業により教育現場のニーズに対応した研究の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「異分野融合研究プログラム」による共同研究 ○ 情動とこころの発達に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪大学・浜松医科大学(子どものこころの発達研究センター)における「子どものこころのひずみ」に関する研究 ・ 理化学研究所(脳科学総合研究センター)における情動と社会性の発達に関する研究

いわゆる「キレる」言動等の問題への対応の推進

背景

子ども達の「こころ」の問題

※ 問題行動・生徒指導上の課題の背景の一つとして、情動・こころの発達のひずみ等との関連の可能性

- ・ 重大な少年犯罪
- ・ いじめ
- ・ 不登校
- ・ ニート、フリーター

- ・ 突発的な攻撃性、反社会的行動
- ・ 社会的適応の不全、引きこもり
- ・ メディアへの依存

脳科学等の発達

※ 医学・生物学上の知見の蓄積
 ※ 非侵襲的な計測技術等の進展

【わかってきたこと】

- ・ 子どもの対人関係能力等の育成には適切な「愛着」形成が必要
- ・ 子どもの「こころ」の健全な発達には基本的な生活リズムの確保（睡眠・食事）が必要
- ・ 人間の「情動」は生まれてから5歳くらいまでにその原型が形成（乳幼児期の教育の重要性）など

脳科学等の成果の教育への応用に対する期待

子どものこころの成長に関する基盤整備事業 《新規》

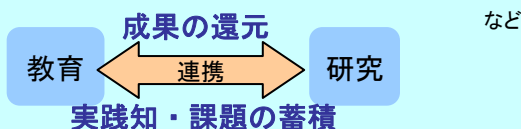
「異分野融合研究プログラム」による共同研究 《新規》

情動とこころの発達に関する研究 【大阪大学・浜松医大／理研】

1. 教育と研究との連携システムの構築 ～ リエゾン拠点の形成 ～

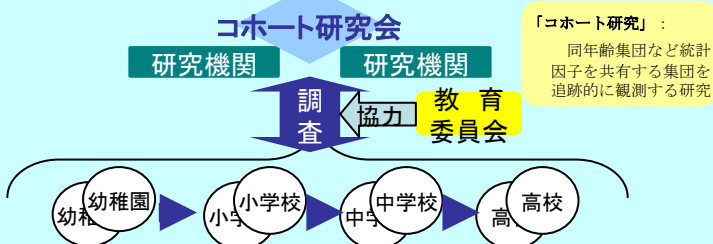
【ねらい】 社会的要請に基づく研究と科学的根拠に基づく教育の促進

- 各研究所や大学等と連携した諸科学の研究成果を集積
- 研究成果のスクリーニングと教育現場に向けた解説等
- 研究成果の教育現場への還元
- 教育現場の問題点の蓄積・体系化、研究へのフィードバック など



2. 児童生徒に関する客観的データの収集 ～ コホート研究の実施 ～

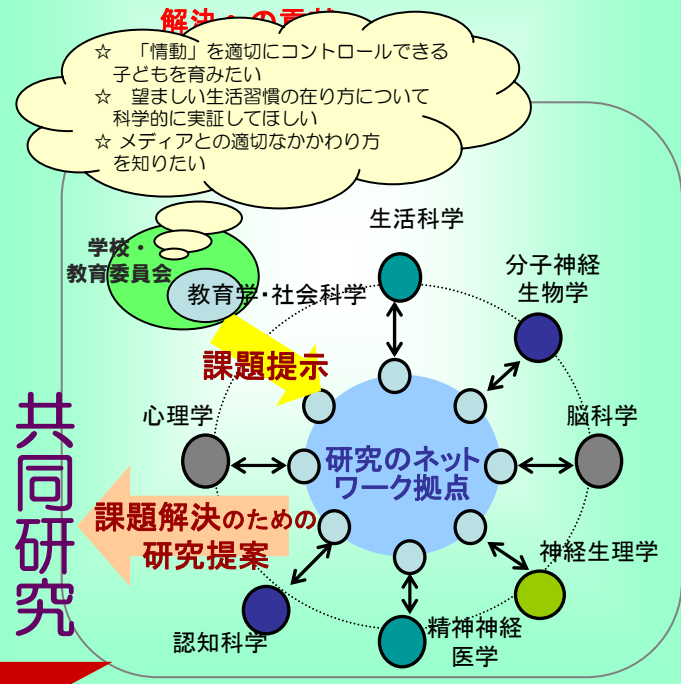
【ねらい】 科学的根拠の蓄積のためのデータ収集



※ 平成19年度は準備研究に着手

3. 教育現場のニーズに対応した研究の推進

【ねらい】 諸科学の連携による教育現場の課題



期待される成果

- ◆ 教育現場のニーズを踏まえた研究の進展
- ◆ 情動・こころの発達のひずみ等に関する科学的知見の集積
- ◆ 「こころ」の問題等に対する正しい理解の促進
- ◆ 科学的根拠に基づく新たな指導方法等の普及